

事業名	医療的ケア児と家族の夢を寄付で応援
資金分配団体	公益財団法人お金をまわそう基金
実行団体	

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	□	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	分野	□	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援	
				□	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援	
				□	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	
	□	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動		□	④働くことが困難な人への支援	
				□	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援	
				□	⑥地域の働く場づくりの支援	
□	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動		□	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援		

SDGsとの関連

ゴール	ターゲット
3.すべての人に健康と福祉を	3.8 全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な
10.人や国の不平等をなくそう	10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あ

実施時期	2019年11月～2023年 3月	直接的対象グループ	自立歩行、座位保持が困難な医療的ケア児を中心とする子ども達とその家族	間接的対象グループ	支援対象の子どもとその家族及びサポートする団体・
対象地域	全国	人数	実行団体採択後に決定	人数	実行団体採択後に決定

I. 団体の社会的役割

(1) 団体の目的
①ビジョン お金をまわして、より良い社会をつくる。 ②ミッション 「えんづくり」プラットフォームを構築する。 ・支援者と活動団体の「縁」を提供する。 ・活動団体の「円」を共に探し続ける。 ・世の中にお金を循環させ経済活動を活発にする。 本事業では、医療的ケア児とその家族が孤立することなく夢や希望をもって生活することができる社会を目指す。
(2) 団体の概要・活動・業務
①より良い社会を寄付でつくる助成事業 実行団体の活動を広めることで共感と共に集まった寄付金をもとに、対象事業への助成を行う。また伴走支援としてファンドレイズや法人運営のアドバイスをを行い、将来的に自立できるように取り組む。 ②寄付文化や活動を知ってもらうセミナー・体験活動事業 実行団体の活動を広め支援の輪を広げるために、実行団体の話を聞く機会や実際に体験してみる機会をつくる。

II. 事業の背景・課題

(1) 社会課題
医療の進歩により、障害や病気を持つ多くの新生児の命が助かるようになりました。しかし、同時に人工呼吸等が不可欠な医療的ケアを必要とする子どもが2019年には19000人に達する見通し(※)です。 ※平成30年厚生労働科学研究田村班報告より 医療的ケア児の母は24時間の介護に動き回り働くことは難しく、家族全員が社会との接点を失い社会から心理的・物理的に孤立しがちです。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
【子育て世代包括支援センターの全国展開】 子育て世代包括支援センターに保健師を配置して母子保健サービス、子育て支援サービスを一体的に提供 【小児慢性特定疾病自立支援事業】 自立を阻害されている児童等について地域による支援の充実により自立促進を図る 【小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付事業】 日常生活がより円滑に行われるための用具を給付又は貸与する 【医療的ケア児の地域支援体制構築に係る担当者行動会議】 厚生労働省、文部科学省による支援制度の促す取り組み
(3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義
①支援対象の家族全員に安心して楽しい思い出を作ってもらふことや、きょうだい児が叶えたい夢をサポートすることがご家族の心を満たし、日々の生活に前向きな気持ちをもたらす。 ②看病に追われ孤立しがちな家族にとって、ボランティア等のサポートが励ましとなり、心のゆとりや自信につながる。また他の家族との交流や共助への機運を促すことにつながる。 ③本事業がモデルとなり、地域で支え合う活動となるように広めていく。

Ⅲ. 事業設計: 目標設定

(1)中長期アウトカム		指標			
支援地域において、本事業に参加した子どもや家族が社会から孤立することのない地域社会をつくる。		①支援対象の子どもとその家族が旅行や夢の実現をサポートする機会に参加して、楽しい思い出をつくった人数 ②支援対象の子どもとその家族一人ひとりが、家族同士の交流を含めた社会の接点を持っている状態			
(2)短期アウトカム（資金的支援）		指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1、支援地域において、本事業に参加した子どもや家族が日常生活を前向きに過ごせるようになる		より前向きに過ごせるようになった人数	他に相談できず、孤立している状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
2、きょうだい児が我慢することなく楽しい時間を過ごすこと		思い切り楽しめたきょうだい児の人数	親に甘えたり我がままをいう事を我慢してしまいがちな状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
3、支援対象の子どもとその家族やボランティアとの交流によって心のケアにつながる		1、参加する前と比べ、精神的に楽になる事ができた人数 2、継続して参加したいと思う人の人数	相談する相手がなく、孤立している状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
4、家庭内でのコミュニケーションの増加		家庭内でのコミュニケーションが増えたと感じる家族の数	家族間のコミュニケーションの時間が少ない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
(2)短期アウトカム（非資金的支援）		指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
支援地域において、実行団体へのファンドレイズ支援により、対象となる子どもや家族に対する支援が活性化される		1、支援開始からの寄付件数、金額の増加 2、支援者が実行団体の活動に対する理解を深めることができたか	十分な活動資金が集められていない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
(3)アウトプット(資金的支援)		指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1、支援対象の子どもとその家族の旅行や夢の実現をサポートする機会を実施		1、実施した回数 2、参加した人数	旅行などができていない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
2支援対象の子どもとその家族同士が交流や相談をする機会を実施		1、実施した回数 2、参加した人数	同じ地域に住む家族同士でもつなげられない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
(3)アウトプット(非資金的支援)		指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1、寄付募集のページ作成、公開		1、実行団体に関心を持った人に、その現状や取り組みが分かりやすくまとめられているか。 2、寄付者が迷わずに寄付できる状態か。	何もない状態	実行団体と当団体の双方が確認し公開できる状態	2020年4月まで
2、実行団体のホームページやSNSの改修・作成		実行団体が行う事業や活動を実行団体が随時発信でき、支援者などが確認できる状態にする	実行団体のホームページやSNSがないもしくは、更新が少ない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで
3、実行団体へセミナー・体験会などのイベント企画		希望する実行団体へ、自身の活動を広めるための機会を提供した回数と、参加者数	普段からセミナーや体験会の未実施もしくは経験が少ない状態	実行団体が確定してから設定	2023年3月まで

IV. 事業設計: 具体的な活動

(1)活動(資金的支援)	時期
【アウトプット1に対する活動】 1. 支援対象の子どもとその家族を公募 2.. 支援対象の子どもの症状の確認 3. 病児主治医、選考委員会を経て、支援対象の子どもとその家族の受入予定を内定 4. 事務局による家庭訪問、打ち合わせと最終受入可否を決定 5. ボランティアの募集(小児科医師、協力いただける企業もしくは個人)、人員の確定 6. 訪問予定地の下見、訪問先の確定 7. 訪問先の医療機関等への事前手配(緊急時の搬送先医院への事前申し入れ) 8. 訪問先の手配(交通手段、宿泊先、テーマパークなどのチケット、食事の手配) 9. 支援対象の子どもとその家族医療的ケア児と家族の受入 10. 支援対象の子どもとその家族へ意識調査を実施 【アウトプット2に対する活動】 1. 支援対象の子どもとその家族を公募 2. 支援対象の子どもとその家族を選考・事務局面談を経て最終決定 3. 近い地域の家族が見つかるようにマッチング 4. 会場を調査(案件ごと) 5. 安全・安心を配慮した体制(医療機関、ボランティア) 6. アンケート実施	実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 旅行や夢の実現のサポートが実行された後 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による 実行団体による
(1)活動(非資金的支援)	時期
【アウトプット1.2.3に対する活動】 1. 支援対象の子どもとその家族を支援している実行団体候補の調査(地域も含む) 2. 実行団体の募集要項作成、募集開始 3. 申請実行団体の選考(助成選考委員会で選考) 4. 申請実行団体の選考結果を理事会で決議 5. 決定された実行団体との書類の手続き及び事業計画の確認 6. 寄付受付ページの作成及び実行団体(業務執行役員、事務局)と打ち合わせ、実行団体の地域を調査 7. 寄付金の受付 8. 集まった寄付をもとに助成金を支払う 9. 毎月遠隔で対面できる方法で、実行団体と事業の進捗状況の確認(PO、業務執行役員、事務局) 10. 四半期ごと対面による方法で、実行団体と事業の進捗状況の確認(PO、業務執行役員、事務局) 11. 希望に応じて実行団体とのセミナー・体験会を実施 12. アニュアルレポートを作成 13. 寄付者へアニュアルレポートを送付	2019年12月から2020年2月 2020年2月から 2020年3月末ごろ 2020年4月上旬 2020年4月 2020年4月 各年4月(初年度は5月)から9月末、10月から3月末(寄付の受付は通年) 各年4月末(10月から3月末)、10月末(4月から9月末)まで 各年毎月 各年4月、7月、10月、1月 実行団体による 各年12月 各年3月

Ⅳインプット

インプット					
資金	①事業費 (自己資金含む)	内訳: 助成金等充当額		②プログラム・オフィサー関連経費	③評価関連経費
		管理的経費			
	¥37,835,000	¥32,200,000	¥5,635,000	¥26,297,200	¥1,579,200
人材	内部: 合計4人(PO2人(メイン1人、補助1名)、本事業管理担当者3人(兼任を含む) 外部: 合計15人ほど(PO2名(JANPIA)、評価アドバイザー1人、選考委員会5人、外部識者5人、広告デザイナー1名、WEBデザイナー1名)				
資機材	パソコン、プロジェクター、プリンター				
その他	選考委員会費、印刷製本費(訴求チラシ、アニュアルレポート)、会場費(セミナーなど)、人件費等				

資金計画書

調達の内訳

申請事業名： 医療的ケア児と家族の夢を寄付で応援

申請団体名： 公益財団法人お金をまわそう基金

1. 事業費の調達

	2019年度*	2020年度*	2021年度	2022年度	合計（円）
A. 助成金	500,000	9,720,000	9,720,000	9,720,000	29,660,000
B. 自己資金・民間資金	230,000	1,715,000	3,115,000	3,115,000	8,175,000
合計（A+B）	730,000	11,435,000	12,835,000	12,835,000	37,835,000
補助率（A/（A+B）%）	68.5%	85.0%	75.7%	75.7%	78.4%

特例申請の有無 特例を希望される場合には、事業年度毎に希望する比率と理由及び根拠となる資料を別添資料としてお付けください。	希望しない
--	-------

2. 別枠C. プログラム・オフィサー関連経費

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計（円）
プログラム・オフィサー関連経費	2,890,000	7,773,600	7,802,400	7,831,200	26,297,200

3. 別枠D. 評価関連経費

	%	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計（円）
資金分配団体用	5.3%	310,000	356,400	456,400	456,400	1,579,200
実行団体用	5.4%		450,000	450,000	450,000	1,350,000
合計		310,000	806,400	906,400	906,400	2,929,200

4. 助成金の合計

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計（円）
合計（A+C+D）	3,700,000	18,300,000	18,428,800	18,457,600	58,886,400

自己資金・民間資金の明細

事業費の調達に占める自己資金又は民間資金について、その内訳を記載ください。

資金の種類		金額（円）	調達確度 （A:確定済、B:内諾 済、C:調整中、D: 計画段階）	備考 （調達時期等）
	受取寄付金（管理費的経費）	230,000	A	
	2019年度小計	230,000		
	受取寄付金（助成金）	1,400,000	D	ファンドレイジングによる調達
	受取寄付金（管理費的経費）	315,000	C	
	2020年度小計	1,715,000		
	受取寄付金（助成金）	2,800,000	D	ファンドレイジングによる調達
	受取寄付金（管理費的経費）	315,000	C	
	2021年度小計	3,115,000		
	受取寄付金（助成金）	2,800,000	D	ファンドレイジングによる調達
	受取寄付金（管理費的経費）	315,000	C	
	2022年度小計	3,115,000		
合計		8,175,000		

事業費の明細

(1) 事業費の支出明細

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計（円）
A. 助成金	実行団体への助成等に充当される費用		8,400,000	8,400,000	8,400,000	25,200,000
	管理的経費	500,000	1,320,000	1,320,000	1,320,000	4,460,000
	管理的経費の割合	100.0%	13.6%	13.6%	13.6%	15.0%
B. 自己資金・民間資金	実行団体への助成等に充当される費用		1,400,000	2,800,000	2,800,000	7,000,000
	管理的経費	230,000	315,000	315,000	315,000	1,175,000
	管理的経費の割合	100.0%	18.4%	10.1%	10.1%	14.4%

(2) 実行団体への助成等に充当される費用の年度別概算

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計（円）
実行団体への助成等に充当される費用		9,800,000	11,200,000	11,200,000	32,200,000
事業費に占める割合	0.0%	85.7%	87.3%	87.3%	85.1%

事業名	医療的ケア児と家族の夢を寄付で応援
資金分配団体	公益財団法人お金をまわそう基金
実行団体	

I. 評価スケジュール・実施体制

	事前評価	中間評価	事後評価	追跡評価
提出時期	2020年3月	2021年9月	2023年2～3月	
実施体制	資金分配団体、実行団体 外部協力者(評価アドバイザー等)	資金分配団体、実行団体 外部協力者(評価アドバイザー等)	資金分配団体、実行団体 外部協力者(評価アドバイザー等)	
必要な調査	フォーカスグループ、文献調査、インタビュー、ワークショップ	アンケート、観察、インタビュー、フォーカスグループ、ワークショップ	定量データ収集、アンケート、インタビュー、フォーカスグループ	
評価関連経費	¥310,000	¥812,800	¥456,400	¥0
評価関連経費のうち外部委託費	¥100,000	¥608,800	¥354,400	¥0
外部委託内容	指標やデータ収集方法の検討	関係者インタビュー	データ収集	
	課題の抽出調査	データ収集	データ分析	

II. 評価スケジュール・実施体制

評価の要素	評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法			評価時期 (複数可)
			判断方法 (指標など)	判断基準値 (目標値／状態など)	必要なデータ	情報源	データ収集方法	
課題の分析	①特定された課題の妥当性	活動地域の特性と課題の問題構造を十分に把握しているか	課題の要因や特徴についての関係者との協議の回数や資質	事業の関係者間で課題の要因に関する合意がほぼできている	定性データ	支援機関の関係者など	フォーカスグループ ディスカッション	事前評価
課題の分析	①特定された課題の妥当性	活動地域の特性と課題の問題構造を十分に把握しているか	課題の要因や特徴についての関係者との協議の回数や資質	事業の関係者間で課題の要因に関する合意がほぼできている	定性データ	支援機関の関係者など	関係者インタビュー	事前評価

課題の分析	①特定された課題の妥当性	活動地域の特性と課題の問題構造を十分に把握しているか	課題の要因に関する 先行研究のレビュー や諸要因の関係性の 把握	先行研究などに 照らして課題を 十分に把握でき ている状態	定性データ	先行研究・行政 資料など	文献調査	事前評価
課題の分析	②特定された事業対象の妥当性	事業対象グループの選定は適切か	直接的・間接的対象 グループの数・属性	直接的、間接的 対象グループの 数・属性	定性データ	支援機関の関 係者など	フォーカスグループ ディスカッション	事前評価
課題の分析	②特定された事業対象の妥当性	事業の対象グループはどのような問題・ 関心・期待・懸念などを持っているのか	直接的、間接的対象 グループの関心、期 待など	事業の対象グル ープの関心 や期待の把握 が十分にできて いる	定性データ	支援対象者(事 業の受益者)の 一部	関係者インタビュー	事前評価
課題の分析	②特定された事業対象の妥当性	事業の対象グループはどのような問題・ 関心・期待・懸念などを持っているのか	直接的、間接的対象 グループの関心、期 待など	事業の対象グル ープの関心 や期待の把握 が十分にできて いる	定性データ	支援機関の関 係者など	ワークショップ	事前評価
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	最終的に解決したい目標や中間的なア ウトカムを達成するための事業設計はで きているか	tocの質	事業関係者が 十分納得できる 内容になっている	定性データ	支援機関の関 係者など	ワークショップ	事前評価
事業設計の分析	④事業計画の妥当性	達成したい目標に対して妥当な活動内 容が設定されているか	tocの質	事業関係者が 十分納得できる 内容になっている	定性データ	支援機関の関 係者など	ワークショップ	事前評価
事業設計の分析	④事業計画の妥当性	計画の妨げとなる事象が十分に検討さ れ、それを軽減するための対策は検討 されているか	資金分配団体PO、 JANPIA間で協議	事業関係者と合 意できる	定性データ	支援機関の関 係者など	フォーカスグループ ディスカッション	事前評価
実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	実行団体による活動は計画どおりに実 行されているのか	資金分配団体で協議	事業関係者と合 意できる	定性データ	支援機関の関 係者など	フォーカスグループ ディスカッション	中間評価
実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	実行団体による活動は計画通りに実施 されているのか	①計画通り、②やや 計画どおり、③あまり 計画どおりでない、④ 計画どおりでない、で 判断	7割以上の実行 団体が「計画ど おり」を回答する	定量データ	実行団体	アンケート調査	中間評価

実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	実行団体による活動は計画通りに実施されているのか	①計画通り、②やや計画どおり、③あまり計画どおりでない、④計画どおりでない、で判断	7割以上の実行団体が「計画どおり」を回答する	定性データ	実行団体の活動	直接観察	中間評価
実施状況の分析	⑥知見の共有、活動の改善	事業を通じて新たなアイデアが生まれたか	団体内の「気づき」をもとにした話し合い	何か一つ以上アイデアが実行されている	定性データ	支援機関の関係者など	その他	中間評価
実施状況の分析	⑦組織基盤の強化	総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でどの程度強化されたか、それは何のためによるものなのか	財政状況、人材の育成状況、ネットワークの構築状況	7割以上の実行団体が「十分と言える」状況である	定性データ	実行団体の関係者	アンケート調査	中間評価
実施状況の分析	⑦組織基盤の強化	総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でどの程度強化されたか、それは何のためによるものなのか	財政状況、人材の育成状況、ネットワークの構築状況	7割以上の実行団体が「十分と言える」状況である	定性データ	実行団体の関係者	直接観察	中間評価
実施状況の分析	⑦組織基盤の強化	実行団体は取り組みを継続しているか。それにより事業で目指していた効果が継続して発現しているのか	①人数を増やして継続している、②現状維持で継続している、③規模を縮小して継続している、④継続できていない	全ての実行団体が継続していると回答	定量データ	実行団体の関係者	アンケート調査	中間評価
アウトカムの分析	⑧アウトカムの達成度	実行団体の事業をととして資金分配団体が最終的に達成したいアウトカムは達成されたか	事業計画・中長期アウトカムの指標欄に設定した指標	難病児とその家族が旅行や夢の実現をサポートする機会に参加して将来の夢や希望が持てた人数	定量データ	実行団体の記録	アンケート調査	事後評価
アウトカムの分析	⑧アウトカムの達成度	実行団体の事業をととして資金分配団体が最終的に達成したいアウトカムは達成されたか	事業計画・中長期アウトカムの指標欄に設定した指標	難病児とその家族一人ひとりが、家族同士の交流を含めた社会の接点を持っている状態	定性データ	実行団体とPO	アンケート調査	事後評価

アウトカムの分析	⑨波及効果	対象とする地域や分野を超えて、同様の手法による取り組みは波及しそうか	他団体による取り組みの数	支援未実施地域で開拓・準備された事業の数もしくはすでに行なっているが、新しく取り組む事業の数	定量データ	未実施地域や新たな事業の担当者	関係者インタビュー	事後評価
アウトカムの分析	⑩事業の効率性	事業実施のためにインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか	インプット(資金等)とアウトカムの比較	十分に許容できる比率	定量データ(収支報告と成果の状況を報告)	自組織の財務情報など	定量データの収集	事後評価